

アラビア語エジプト会話体の情報構造と名詞述語文

長渡 陽一

1. はじめに

エジプトのカイロ市を中心としたアラビア語の会話体による文例を提示する。会話体は書かれることがあまりなく正書法もないが、文章体との対比がしやすいようにアラビア文字でも表記した。文例作成にあたって、カイロ市出身の 20 代の女性、ゼイナブ・アル・アズィーズィ氏からの協力を得た。

1.1. エジプト会話体の品詞

名詞 名詞は格変化しない。格関係は前置詞で示すが、主格(動詞に前置)、対格(動詞に後置)、属格(後置)は語順で示す。また、男性名詞と女性名詞に分かれ、代名詞や形容詞、それを主語とする動詞の活用として照合される。

代名詞 人称代名詞は独立形と接尾形がある。対格、属格、前置詞に支配されるなど、別の語に後置されるとき接尾形になる：(11) *fiare:t-o*「それを買った(対格)」, (8) *ʔaxu:h*「彼の兄弟(属格)」, (4) *ga:-l-i*「私に来た(*l*:前置詞)」。

[表 1] 人称代名詞 ()は母音おわりの単語につけるととき。

	独立形		接尾形	
	男性	女性	男性	女性
1 人称	<i>ana</i>		<i>-i (-ja)</i>	
2 人称	<i>enta</i>	<i>enti</i>	<i>-ak (-k)</i>	<i>-ek (-ki)</i>
3 人称	<i>howwa</i>	<i>hejja</i>	<i>-o (-h)</i>	<i>-ha</i>

指示代名詞は遠近の区別がなく、男性名詞には *da*, 女性名詞には *di* を使う。「この、あの」を表すには、定冠詞をつけた名詞句に後置する。(11) **k-kita:b da* 「この本」, (12) *ʔ-faxs ʔlli hna:k da* 「あそこにいるその人」。3 人称代名詞(*howwa*, *hejja*)は前件照合に使い、初出では *da*, *di* を使う。

動詞の時制 過去形、現在形、状態形(完了)の 3 つがある。欧米のセム語学では過去形と現在形をそれぞれ完了形、未完了形と呼ぶのが一般的であるが、現代アラビア語では時制であり、アスペクトではない。文例のグロスには、「来た」「買う」のように時制を訳語で示した。状態形は今回の文例には登場しない。現在形には、接頭辞 *ha-* (未来)と *bi-* (進行・習慣)がつく。過去形と現在形は、主語の性・数と人称にしたがって活用する。

[表 2] 動詞「叩く」の活用形(単数形)

	過去形		現在形	
	男性	女性	男性	女性
1 人称	<i>ḡarab-t</i>		<i>a-ḡrab</i>	
2 人称	<i>ḡarab-t</i>	<i>ḡarab-ti</i>	<i>ti-ḡrab</i>	<i>ti-ḡrab-i</i>
3 人称	<i>ḡarab</i>	<i>ḡarab-et</i>	<i>ji-ḡrab</i>	<i>ti-ḡrab</i>

またコンピュータ動詞 *ka:n* を使った複合時制がある：(4) *ka:n ga:-l-i*「私のところに来ていた」(過去+過去), (20) *kunt haḡa:bi:l*「会う予定だった」(過去+未来, *kunt* は *ka:n* の 1 人称単数).

定冠詞 定冠詞があり, 不定冠詞はない. 名詞や形容詞につける定冠詞は *l-*であり, 次に来た歯茎音, 軟口蓋音に同化する：(6) *f-faḡta*「袋」, (10) *k-ke:ka*「ケーキ」. 「定」状態の名詞であっても, 別の「定」状態の名詞によって修飾されているときは定冠詞がつかない：(9) *ḡaḡu:-ha*「彼女の弟」, (14) *wa:lid ʔ-walad*「その男の子の父親」. 名詞と形容詞以外につける定冠詞は *lli* である. head 名詞なしで「～なもの, ～する物」としても使われる：(1) *lli gat*「来た者」, (11) *ʔli fiare:t-o*「買った物」.

名詞が定であるときは, その名詞を修飾する成分にも, それが形容詞(*zarḡa*「青い」)であれ(下記文 b 参照), 副詞(*hna:k*「そこ(にいる)」)であれ(文 c), 動詞であれ(文 e), 定冠詞をつけなければならない. 不定であれば定冠詞をつけず単に名詞に後置されるだけであり(文 a, d), 関係詞のような標示はない. 定・不定が照合されるのみである. ただし, その名詞が, 関係節内で主語以外であれば関係節内で人称代名詞(-*o* (男性), -*ha* (女性)など)として現われ, 照合される(文 e).

- | | | | |
|----|---------------------------|--|-----------------|
| a. | <i>f-ḡaḡta</i>
袋 | <i>zarḡa</i>
青い | 「青い袋」(不定)(6) |
| b. | <i>ʔ-f-ḡaḡta</i>
(定) 袋 | <i>z-zarḡa</i>
(定) 青い | 「青い袋」(定)(6) |
| c. | <i>ʔ-f-ḡaḡs</i>
(定) 人 | <i>ʔli hna:k</i>
(定) そこ | 「その人」(定)(12) |
| d. | <i>ḡa:ga</i>
事 | <i>ḡaḡalet</i>
起きた(は単女) | 「起きた事」(不定)(4) |
| e. | <i>ʔk-kita:b</i>
(定) 本 | <i>ʔli fiare:t-o</i>
(定) 買った(私) それを | 「私が買った本」(定)(作例) |

1.2. エジプト会話体の語順

焦点化には語順の操作が関わってくるので, 前提としての基本語順を確認する.

動詞述語文は SVO である. 主語は任意であるが, 動詞の活用形で主語の人称・性・数が特定できる. VSO もあるが, これは焦点化と関わっている可能性がある. ただし今回のデータにはない.

名詞述語文の語順は, SC (S: 主語, C: 名詞述語)であり, 現在時制ではコンピュータは使わ

れないが、過去、未来ではコンピュータ動詞(*ka:n*)の活用形が使われ、統語上は SVO と同じくなる。SC は現在時制において、連続を断つために代名詞 3 人称独立形(*howwa* (男性), *hejja* (女性))が使われることがある(文例 13 は使われていない例, 14 は使われた例)。

また SVO や SC の文頭に、さらに主題を置くことが可能である(文例 18 参照)。このとき標示は何もない。

疑問詞は、エジプト会話体では、元の位置、あるいは文の後の方に置かれる。(6) *ha-tiftiri ʔanhi?* 「どれを買うか?」の *ʔanhi* 「どれ」、(9) *fi: e:?* 「何があるか? どうしたのか?」の *e:* 「何」は倒置ではなく基本的な位置である。SC 文の疑問文では、疑問詞が C であるとき、その疑問詞が文頭に来る: (1) *e: da?* 「これは何?」、(7) *fe:n ri:m?* 「リームはどこ?」。

2. 焦点

(1) えっ、リーム(女性)が来たの?

e: da?! ri:m gat? (إيه دا! ريم جت؟)
何 これ(男) リーム(女) 来た(彼女)

いや、リームじゃなくてハナーン(女性)が来たんだ。 【対比焦点(主語)】

laʔ, mif ri:m. di hana:n hejja lli gat.
いいえ 否 リーム(女) (小詞) ハナーン 指示詞 3 単女 定 来た(彼女)

(لا، مش ريم. دي حنان هي اللي جت.)

hana:n gat 「ハナーンが来た」の「ハナーン」が焦点化されて、構文が変えられている。文頭の *di* は、代名詞「これ、あれ」(女性)と同形であるが、SC 構文の S と C を断ち切るための代名詞(*hejja*)が *hana:n* の後に入っているため、*di* 自身は主語ではなく、主語を焦点化する働きをしている小詞である。また、名詞に後置されていないので、「この」でもない。

(1)は、「来たのはハナーンだ」のようないわゆる分裂文ではなく、SV 構文の V (述語動詞句)に定冠詞 *lli* をつけることで名詞化した、「ハナーン(こそ)が、来た者だ」という名詞述語文と思われる。同じ名詞述語文が、次の(2)、(3)でも使われている。

質問の *ri:m gat?* 「リームが来たの?」には、「~の?」に当たる焦点化はされていない。

(2) 誰が来たの? — ホサームが来たよ。 【WH 焦点(主語)・WH 応答焦点(主語)】

mi:n elli geh? — da hosa:m elli geh. (مين اللي جه؟ — دا حسام اللي جه.)
誰 定 来た(彼) (小詞) ホサーム 定 来た(彼)

質問は、「来たのは誰か?」という名詞述語文であり、述語である疑問詞 *mi:n* が文頭にくる。主語である「来たのは」は定であるため定冠詞 *lli* がつけられている。また「だれが来たか?」という SV の疑問文であっても、*mi:n* 「だれ」は主語であるため文頭にきて *mi:n*

geh?となる。

(2)の応答の構文については(1), (3)の応答と同じく, 「ホサームが来た」を, 述語動詞を名詞句にして, 「ホサームこそが, 来た者だ」としている。ここではコピュラのように使われる代名詞(*howwa*)はない。

(3) リームの方が背が高いんじゃないの? 【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

mif ri:m hejja l-ḡaṭwal? (مش ريم هي الأطول؟)
否 リーム 指示詞 3 単女 定- 最も長い

いや, リームじゃなくて, アミーラの方が高いんだよ。

la?, mif ri:m. di ami:ra hejja l-ḡaṭwal. (لا، مش ريم. دي اميرة هي الأطول.)
いいえ 否 リーム (小詞) アミーラ 彼女 定- より長い(比較形)

質問は名詞述語文 *hejja mif ri:m* 「それはリームではない」を倒置したものであり, 述語 *mif ri:m* 「リームではない」が文頭に置かれている。応答において主語 *ami:ra* 「アミーラ」に焦点が置かれており, 述語「高い」に焦点は置かれていない。構文は(1), (2)と共通であるが, もともと述語が定である名詞述語文であるので構文の転換はない。*ḡaṭwal* は形容詞の比較・最大形であるが, 定冠詞がつくときは最大の意味であり, 名詞化している。ここでは代名詞 (*hejja*)がコピュラとして使われている。

(4) どうしたの? — 今, お客さんが来たんだ。 【文焦点(自動詞文)】

fi: ḥa:ga ḥaṣalet? — *ka:n ga:-l-i bass ḡuju:f.*
ある 事(女) 起きた(3 単女) (コピュラ過彼) 来た(彼)-に-私 過ぎない 客(複数)
(فيه حاجه حصلت ؟ --- كان جالي بس ضيوف.)

応答において, 主語 *ḡuju:f* 「客」が後置されているが, *ḡuju:f* の焦点化のためではなく, 「不定」の名詞が文頭に立ちにくいためである。一方, *bass* 「過ぎない」をつけることで *ḡuju:f* 「客」が「客に過ぎない」のように焦点化されている。また, *ka:n ga:-l-i* 「私に来たのは」が主語と考えられないのは, *lli* がついて定になっていないからである。

また, 質問の *ḥa:ga ḥaṣalet* 「起きたこと」は主語であるが, 不定であるため後置されている。*fi:* 「ある」は不定の主語しかとれない。

(5) あの子供がムハンマドを叩いたんだって!?! 【対比焦点(目的語)】

ḡa:l ʿl- walad da ḡarab meḥammad? (قال الولد دا ضرب محمد؟)
ですって? 定- 男の子 その(男) 叩いた(彼) ムハンマド

— いや、ムハンマドじゃなくて、ホセインを叩いたんだよ.

laʔ, ma-ḡarab-f ʿmḥammad, da ḡarab ḥose:n.

いいえ 叩かなかった(彼) ムハンマド それ(男) 叩いた(彼) ホセイン

(لا ماضريش محمد دا ضرب حسين.)

応答にある *da* は指示詞「それ」であり、(1), (2), (3)の小詞とは異なる。この *da* 「それ」が主題、VO の *ḡarab ḥose:n* 「ホセインを叩いた」がコメントであり、「それは、ホセインを叩いたのだ」という文になっている。

<i>da</i>	<i>ḡarab</i>	<i>ḥose:n.</i>
[主題]	[コメント]	
それは	叩いた	ホセイン

(6) 赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの?

fi: fanṭa ḥamra w fanṭa zarḡa, ha-tiftiri ḡanhi?

ある 袋 赤い(女) と 袋 青い(女) 未-買う(君) どれ(女)

(فيه شنطة حمراء و شنطة زرقاء, هتشتري أنهي؟)

青い袋を買うよ。【対比焦点(目的語、特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】

ha-ftiri f-fanṭa z-zarḡa. (هاشتري الشنطة الزرقاء.)

未-買う(私) 定-袋 定-青い(女)

この応答文は基本語順のままであり、焦点化の操作はなされていない。目的語が動詞に後置されて文末に来ると、焦点化のために文末に置かれているのと同じ語順になる。質問の *ḡanhi* 「どれ」は基本的な位置にある。

(7) リームはどうした?

fe:n ri:m? (فين ريم?)

どこ リーム

リームは朝からどっかへでかけたよ。【述語焦点】

ri:m min ʿṣ-ṣubḥ ḡaraget fi hitta. (ريم من الصبح معرفش خرجت راحت فين.)

リーム から 定-朝 出た(彼女) どこか

min ʿṣ-ṣubḥ 「朝から」が動詞より前に置かれているのは、*ḡaraget fi hitta* 「どこかへに出かけた」を文末に置いて焦点化するためであろう。

(8) あの子供は誰を叩いたの？ — 自分の弟を叩いたんだ.

ʔ-walad da ɖarab mi:n ? — ɖarab ʔaxu: -h ʕs-ʂuʂajjar .
 定- 男の子 この(男) 叩いた(彼) だれ 叩いた(3 単男) 兄弟 -彼 定- 小さい
 (الولد دا ضرب مين ؟) (ضرب أخوه الصغير)

【WH 焦点(目的語)・WH 応答焦点(目的語)】

(5), (6), 次の(9)と同じように, 目的語を焦点化していると考えられるが, 基本語順の VO のままである.

(9) どうしたの？ — うん, リームが自分の弟を叩いたんだ. (電話で)

fi: e: ? — ri:m ɖarabet ʔaxu: -ha ʕ-ʂuʂajjar .
 ある 何 リーム 叩いた(3 単女) 兄弟 -彼女 定- 小さい
 (فيه ايه ؟ -- ريم ضربت اخوها الصغير.)

【文焦点(他動詞文)】

(5), (6), (8)と同じく基本語順の SVO のままである.

(10) あのケーキ, どうした？ — ああ, リームが食べちゃったよ.

hejja fe:n^e k-ke:ka ? — ri:m ʔakalet-ha . (هي فين الكيكة ؟ -- ريم أكلتها.)
 代名詞(3 単女) ある 定- ケーキ リーム 食べた(彼)-それ(女)

【目的語主題化, 主題(目的語)の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

応答における目的語は省略できず, 代名詞-*ha* で現れている. 質問の *hejja* (代名詞 3 単女) は, 主題や主語ではなく, 主語(ここでは *k-ke:ka*)を予め導入するものである. 「introductory signal to a subject referent」(Badawi 1986: 918)を参照.

(11) 私が昨日お店から買って来たのはこの本だ. 【分裂文】

ʔli ʃtare:t-o mba:reħ min ʔ-maħall ʔ-kita:b da .
 定 買った(私)-それ(男) 昨日 から 定- 店 定- 本(男) この(男)
 (اللي اشتريته امبارح من المحل الكتاب دا.)

これは名詞述語文になっており, *ʔ-kita:b da* 「この本」が述語で, その前の部分が主語である. 文頭の *ʔli* は「私が昨日お店から買って来た」につけられた定冠詞である.

3. コピュラ文

(12) あの人(人)は先生だ。

f-faxs^e lli hna:k da mudarris. (الشخص اللي هناك دا مدرس.)
 定-人 定 あそこ その 教師(男)

この学校でもう3年働いている。

baʔa:-l-o talat sini:n bejiftaval fi l-madrasa di.
 なった(3単男)に-彼 3 年(複数) 働いている(進行3単男) で 定-学校(女) その(女)
 (بقاله 3 سنين بيشتغل في المدرسة دي.)

【措定文 主題(名詞述語文の主語)の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

f-faxs^e lli hna:k da 「あそこにいるその人」が主語, *mudarris* 「教師」が述語の, 名詞述語文である。応答は, *baʔa:* 「なった」(不変化)の主語は *talat sini:n* 「3年」で「3年が彼に(とって)なった」である。*bejiftaval* 「働いている」以降は副詞句「働いていて」とみることができる。

(13) 彼女のお父さんは, あの人だ。 【倒置指定文】

wa:lid ʔ-bint^e di f-faxs ʔlli hna:k da. (والد البنت دي الشخص اللي هناك دا.)
 父親 定-女の子 その(女) 定-人 定 そこ その(男)

主語が *wa:lid ʔ-bint^e di* 「その女の子の父親」, 述語が *f-faxs ʔlli hna:k da* 「そこにいるその人」である。述語も定である。

(14) あの人(人)が彼のお父さんだ。 【指定文】

f-faxs^e da howwa wa:lid ʔ-walad da. (الشخص دا هو والد الولد دا.)
 定-人 その(男) 彼 父親 定-男の子 その(男)

主語 *f-faxs^e da* 「あの人」と述語 *wa:lid ʔ-walad da* 「その男の子の父親」の間を, *howwa* (代名詞3単男)が断ち切っている。

(15) あさってってというのはね, あしたの次の日のことだよ。 【定義文】

“ASATTE” *jaʕni baʕd^e bokra.* (“اساتيه” يعني بعد بكره.)
 意味する(不変化) 後 明日 (=明後日)

定義文では, 単純な名詞述語文も使われるが, *jaʕni* がよく使われる。元来は「意味する」という動詞だが, 主語の性・数によっても不変化である。

(16) 私はコーヒーだ。(何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて) 【ウナギ文】

ana ha-aḡod ʔahwa. (أنا هاخذ قهوة.)
私 未-取る(私) コーヒー

ウナギ文(**ana ʔahwa*)は非文とのことである。

(17) コーヒーは私だ。(「どなたがコーヒーですか？」との問いに) 【逆行ウナギ文】

a. *ana lli ʔalabtʰe ʔahwa.* (أنا اللي طلبت قهوة.)
私 定 頼んだ(1 単) コーヒー

b. *ʔl-ʔahwa ʕand-i hna.* (القهوه عندي هنا.)
定-コーヒー 私の許に ここ

ウナギ文(**ʔl-ʔahwa ana*)は非文とのことである。文 a は、「私が、コーヒーを頼んだ者だ」、あるいは「コーヒーを頼んだ者は、私だ」のどちらかは特定しがたい。文 b は、「そのコーヒーは、ここ、私の許のものである」という構造になっている。

(18) その新しくて厚い本は、値段が高い。 【形容詞述語文修飾・並列・述語】

ʕ-k-kita:b ʕg-gidi:d ʕd-daxmʰe da siʕr-o ʕa:li.
定-本(男) 定-新しい 定-でかい その(男) 値段-その(男) 高い
(الكتاب الجديد الضخم دا سعره غالي.)

主題+SC の文になっている。主題が *ʕ-k-kita:b ʕg-gidi:d ʕd-daxmʰe da* 「その新しくて厚い本」で、それに対するコメントが *siʕr-o ʕa:li* 「その値段が高い」である。コメント部分は *siʕr-o* 「その値段」が主語、*ʕa:li* 「高い」が形容詞述語となっている。*-o* (人称代名詞 3 単男)は主題の名詞句を指している。名詞述語文と形容詞述語文はコンピュータに違いはなく、現在時制ではコンピュータを使わず、過去や未来ではコンピュータ動詞 *ka:n* の活用形を使う。

4. 意外性

(19) あっ、砂糖が無くなっているよ！(砂糖の入れ物を開けて) 【意外性(mirativity)】

e: da, s-sukkar ʕiliʕ! (ايه دا السكر خلص.)
何 これ(男) 定-砂糖 終わった

s-sukkar ʕiliʕ 「砂糖が終わった」の部分には、意外性を表す標示はない。*e: da* 「これは何？」で談話的に表している。

(20) あっ、そうだ！ 田中君だったな。(午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。)

aiwa, ṣaḥḥ, kunt haʔa:bił tanaka. (ايوه صح كنت هقابل تاناكا.)
 はい そう コピュラ(私) 未-会う(私) 田中

【思い出し】

「会う」ことは未来の予定であるが、忘れる以前の状態への回帰であり、*haʔa:bił* (未来接辞 *ha-* + *aʔa:bił*「私会う」)を *kunt* (コピュラ動詞 *ka:n* の過去形)で過去時制にしている。

5. おわりに

主語を対比させ、焦点化するためには、名詞述語文にしている。ただ、(1)、(2)のように主語は主語のまま、述語動詞句だけを定冠詞をつけて定名詞句にしている。また、もともと名詞述語文の(3)や、目的語の焦点化の(5)では構文転換はなく、文頭で小詞 *da*, *di* を使って焦点化をしているようである。とくに目的語の対比焦点では、(6)のように基本文と何も変わらないこともある。

コピュラ文では、措定文(12)、倒置指定文(13)、指定文(14)には統語上、形態上の区別はない。定義文(15)では動詞が使われるが、不変化であり、特殊なコピュラのようになっている。ウナギ文、逆ウナギ文ともに非文であり、別の言い回しをする。

また、思い出しを表すのには過去時制を使う。

参考文献

Badawi, El-Said and Martin Hinds. 1986. *A Dictionary of Egyptian Arabic*, Librarie du Liban: Beirut.

